

# 平成29年度 学校評価

宮城県立視覚支援学校

## 1 学習指導

(1) 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の実践的活用を通じた、一人一人の実態に即した支援・指導の充実。

○自己評価結果：B

○評価理由と改善の方策：

「個別の教育支援計画」については、年度末に次年度原案を作成して、新年度のスムーズな支援開始を目指している。「個別の指導計画」については、学期毎に指導の振り返りを行ってきた。

眼科校医の協力を得て、主治医からの医療情報提供を受けている。また、視覚障害に関するプロフィール表の作成に取り組んでいる。個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の根拠資料として、平成30年度から運用していく予定である。

(2) 視覚障害教育の専門性の維持継承に基づく指導の充実。

○自己評価結果：B

○評価理由と改善の方策：

新・転入者を対象とした「入門研修」は、基本的な指導力の養成に効果的だった。「基本研修」では、歩行指導や点字指導など、より実践的な指導力の向上を図った。外部の専門家を招いての研修に加え、視能訓練士による眼疾患の研修会、歩行訓練士による誘導研修会も企画し、専門性の維持に努めた。

今後は、教職員の有する専門性を明確にし、「基本研修」の在り方を検討していきたい。

【学校関係者評価委員会における意見】

○個別の教育支援計画の引き継ぎを確実に行うことが重要である。

## 2 生徒指導

(1) 学校行事、共同学習、地域や他校との交流活動などの積極的な展開による児童生徒のコミュニケーション能力や社会性の育成。

○自己評価結果：B

○評価理由と改善の方策：

小学部は、北六番丁小学校との交流・共同学習を実施してきた。行事見学のほか、学年毎の共同学習も実施した。中学部は、上杉山中学校生徒との交流活動を実施した。運動会での交流や中学校の行事見学を通して交流を行った。高等部は、みやぎ総文（全国高等学校総合文化祭）の特別支援学校部門で他校代表生徒と協力しながら、全国大会を企画運営した。

希望する児童は、宮城県の居住地校学習推進事業に参加し、地域の小学校での交流学習を行った。成果については、保護者からの評価も高かった。

(2) 悩みや問題を抱える児童生徒一人一人の心に寄り添うカウンセリングの充実。

○自己評価結果：B

○評価理由と改善の方策：

スクールカウンセラーと連携し、悩みを抱える生徒の初期対応に力を入れてきた。加えて、今年度は、全児童生徒と学校長との個別面談を校長室で実施した。また、全校児童生徒対象に学習と支援についての調査を行い、指導・支援の課題を職員会議で共有した。

関係者で連携しながら、児童生徒一人一人の多様な悩みの個別対応に一層努めていきたい。

(3) 児童生徒の実態に即した寄宿舎運営及び寄宿舎機能の有効活用を通じた社会的自立に向けた支援・指導。

○自己評価結果：B

○評価理由と改善の方策：

「個別の指導計画」に基づいて舎生の生活自立に向けた支援を行ってきた。洗濯や清掃、身支度などを身につけられるようになってきている。今後は、家庭との一層の連携を図りながら、両方の場で実践できるようにしていきたい。

放課後の寄宿舎活用を通して、通学生の余暇の充実等の生活支援も行ってきた。

【学校関係者評価委員会における意見】

○年齢が高い学部で悩みを訴える生徒が多い。次年度は、その点を考慮した取り組みを期待する。

### 3 進路指導

(1) 小学部・中学部・高等部・寄宿舎連携による児童生徒が自らの生き方を主体的に探求する「志教育」の推進。

○自己評価結果：B

○評価理由と改善の方策：

年間計画に基づき、日常の学習の中で、志教育の基本的理念である「かかわる」「もとめる」「はたす」に関する活動場면을意識的に設定して指導を行ってきた。

今後は、実践提供の機会を設定するなど、校内研修を通して一層の連携を図りたい。

(2) 生徒の一人一人の様々な進路希望に応じた進路支援・進路指導の充実及び生徒全員の進路希望実現。

○自己評価結果：B

○評価理由と改善の方策：

進路検討委員会を開催し、それぞれの生徒の進路実現を学校全体で支援してきた。年度途中で、進路変更した生徒もいたが、実習等を重ね、生活自立の達成を支援することができた。

進路の手引きを作成し、それに基づく指導を行ってきた。加えて、高等部3年間における進路指導計画の作成をしていきたい。

(3) 「あはき国家試験」(あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師 国家試験)に向けた支援・指導の充実及び、豊かな人間性を備えた理療師の育成。

○自己評価結果：B

○評価理由と改善の方策：

実力考査を年4回に増やして、段階的に学力の定着を図ってきた。国家試験に向けて、実力、学習習慣ともに不十分な生徒が多くいたが、試験後の教育相談、補習等を通じて指導を繰り返してきた。

治療院等での実習などの体験を通し、職業人としての意識を一層高めていきたい。

【学校関係者評価委員会における意見】

○保護者に対する情報提供は充実してきている。

○理療人としての知識と技術を身につけて社会に出て行く目的がはっきりしている学校である。国家試験に向けて、実力考査実施後の検討を確実に行って指導し、実力向上を図ってほしい。

## 4 センターの機能

(1) 視覚障害教育の教育相談及び支援活動の積極的な展開によるセンター的機能の一層の充実。

○自己評価結果：A

○評価理由と改善の方策：

昨年度とほぼ同数の相談があり、県内唯一の視覚障害教育機関としてセンター的機能を発揮した。早期教育相談，小中高の学校等支援，自立支援，視覚障害教育研修等の支援に当たってきた。

北部サテライトは、活動が地域に定着し、訪問支援，研修会講師の要請が増えている。

次年度以降サテライト機能を全県に展開するための計画立案を行いたい。

(2) 視覚障害教育の啓発活動や積極的な情報提供及び開かれた学校づくりの推進。

○自己評価結果：B

○評価理由と改善の方策：

学校紹介動画，学校紹介及び理療教育紹介のリーフレットを新たに作成し直した。それらの活用を通して，本校教育の啓発と地域で学ぶ視覚障害のある生徒の支援に努めた。また，点字ブロック啓発活動の取材報道を通して，啓発活動を広く伝えた。中学生，高校生で，年度途中で本校への転学を決めた生徒もいた。

一方，高等学校への情報提供の不足が感じられた。校長会や教頭会を通じて，管理職へ働きかけていく必要もある。

次年度，学校教育目標を検討していく予定であり，学校評価についても，大幅に見直す予定である。

【学校関係者評価委員会における意見】

○報道を通して学校の活動を紹介したのは良かった。

○地域のニーズを更に把握すべきと思う。

## 次年度の課題と改善方策

(1) 児童生徒の教育相談の一層の充実

○定期教育相談やカウンセリング等による，児童生徒の悩みの早期把握と，個に対応した相談の充実を図る。

(2) 進路実現のための指導の更なる充実

○考査後の成績会議で，考査結果の検討と指導方針を明らかにし，指導の充実を図る。

○系統的な進路指導計画の充実を図る。

(3) センターの機能の一層の充実

○県南部，沿岸部での移動相談会を実施する。

○学校近隣地域への啓発活動を実施する。